

The background is a collage of various images related to art and hospital activities. It includes close-ups of hands painting, containers filled with brushes and pens, paint palettes, and people engaged in art projects. Overlaid on this are several semi-transparent circles in shades of green, orange, and blue, which serve as design elements for the text.

ホスピタルアート

Hospital Art

プロジェクト

Project

しずおか

Shizuoka

2021年度 活動報告書

こんにちは！

私たち「ホスピタルアートプロジェクトしずおか」は静岡文化芸術大学の学生を中心とした団体、通称「HAPS」です。私たちは、静岡県内の病院で「ホスピタルアート活動」をしています。この報告書では、HAPSが2021年度に行った活動をまとめました。皆様に、私たちHAPSや「ホスピタルアート」についてより知っていただければ幸いです。

そもそもホスピタルアートって？

皆さんは、「病院」という空間に対してどのようなイメージを持っているでしょうか。もしかしたら、「静か、怖そう」など少しネガティブな印象を持つ人もいるかもしれません。しかし、患者さんや職員の方にとって、病院は日常を過ごす場所であり、誰もがかかわりのある場所です。「ホスピタルアート」は、アートを通してそこで過ごす患者さんや職員の方々の日常をより豊かなものにすることを目指す活動です。病院でワークショップや展覧会を行い、病気や治療のことから離れ、やすらぎを感じてもらうことを目的の一つとしています。北欧やイギリスなどでは盛んに取り組まれています。日本ではまだ聞き馴染みのない言葉かもしれませんが。



HAPSのつくるホスピタルアート

HAPSは、活動を行う病院と学生の私たちだからこそ、共にできるホスピタルアートづくりを目指しています。病院の特徴や新型コロナウイルス感染症拡大の影響など、病院の状況はさまざまです。何度も相談を重ね、ご意見をいただきながら、病院に関わるあらゆる人達が楽しく参加できる企画を共に作り上げます。そのため、日々のミーティングでは、学部や学年を超えてメンバー同士でたくさん意見やアイデアを交換し、試作を重ねて準備します。病院で過ごされる患者さんや職員の方々の日常に、アートという創作の場があることで、新たな出会いや楽しみが生まれることを大切にしています。この報告書では、2021年度にこれらの想いをどのような活動で形にしたのかをご紹介します。



HAPSメンバーと磐田市立総合病院の皆さん

磐田市立総合病院でのワークショップ開催

2021年12月、磐田市立総合病院にて、職員さんと学生が共同でワークショップを開催しました。今回行ったのは、病院の受付ロビー横に広がる大きなガラス窓に、マスキングテープを使ったトナカイの壁画を制作するという企画です。

日当たりも良く、広々とした受付ロビーには、患者さんや病院で働く方々が多く行き交います。この開放的な空間は、普段は医療に関するポスターなどが掲示されています。今回はこの場所を彩ることで、見てくださった方々に少しでも癒しを感じてもらえたら、という想いが企画の軸となっています。病院の方々と打ち合わせを重ね、自然の柔らかい印象を受け、季節も感じられる「トナカイ」をモチーフにしました。



さらに、2022年4月には、制作したトナカイの周りを花びらを模した紙で飾り付ける企画「春、貼る、ぺたり」も開催しました。

冬の動物というイメージが強いトナカイですが、そのまわりを花びらで彩ることで、作品を見た方にも春の訪れを感じていただきたいという願いで生まれた企画です。

この企画では患者さんにも作品に参加していただけるように、通りかかった方が自由に貼ることができる花びらのパーツを準備しました。春の訪れとともにトナカイは鮮やかな花々に囲まれ、病院の中にも自然のあたたかみを感じられます。

ここからは、ワークショップの準備から制作、作品の完成まで、その様子をご紹介します。

磐田市立総合病院でのWSの流れ

2021年7月頃～

① ワークショップの計画



② 本番に向けて準備

12月8日 ワークショップ1回目

③ 12月15日 ワークショップ2回目



④ 作品の設置



2022年4月頃～

⑤ 「春、貼る、ぺたり」開催



次のページより
順番にご紹介
していきます

① ワークショップの計画

12月のワークショップ本番に向けて、7月ごろから本格的な計画、準備が始まりました。学生の間で企画を募り、いくつかの候補の中から病院の方々と話し合いを重ね、案を固めていきます。

使用する素材は安全面に配慮し、剥がれにくく耐久性のあるマスキングテープに決定しました。

安全面のご指導から利用者さんの年齢層に関してまで、病院内の詳細な事情について、職員の方々と多岐にわたるご意見をいただきました。学生だけでは考えが及ばなかった点ばかりで、みなさんのご協力がなければ成り立たなかった企画だと改めて感じます。



② 本番に向けて準備

11月、病院との打ち合わせでワークショップの詳細が決定し、あとは本番に向けて準備を進めていきます。

前述した受付ロビー横の広いガラス窓にどのようにトナカイを配置するのか、完成予想のイメージ図をフルカラーで作成。それをパーツごとに分割して、1ブロックごとのトナカイの型紙をプラ板で切り出します。本番では学生と参加してくださる病院の方々とこのプラ板にマスキングテープを貼り付け、さらにそれをガラス窓に貼ることでトナカイの壁画を完成させます。

使用するマスキングテープも準備します。想像以上に多くの量が必要で、柄や幅はもちろん、同じ色でも微妙にニュアンスの違う種類を100個以上揃えました。

③ 12月8日&15日 ワークショップ開催

ついにワークショップの当日です。参加してくださる病院の方々と学生たち混合で5人程度のグループをつくり、班ごとに用意されたプラ板の上に、マスキングテープをそれぞれ自由に貼り付けていきます。

長さも向きも揃えてみたり、細かくぺたぺたちぎったり...。複雑なことを考えなくてもできる作業なので、自然とグループ内の会話が弾みました。

ワークショップの会場には、普段、職員さんが休憩に使っているスペースを使用しました。広いフロアは壁の一面がガラス窓になっていて、外には磐田市の風景が広がっている開放的で明るい空間です。



④ 作品の設置

マスキングテープの貼り付けが終わり、作品の設置作業へ。前述した受付ロビー横の大きなガラス窓に、完成予想図の通りプラ板を並べ、脚立や足場にも登りながらトナカイを完成させます。

すべての設置が完了し、出来上がった大きなトナカイはまさに壮観でした。それぞれのグループで作られたパーツがひとつになり、ステンドグラスのような柔らかな雰囲気を帯びていました。



⑤ 春、貼る、ぺたり

2022年4月には、患者さんや付き添いの皆さんへ向けたWS「春、貼る、ぺたり」を開催しました。前回のWSで制作したトナカイの壁画を、花びらを模した紙で彩るという企画です。

マスキングテープとプラ板を使った色とりどりのパーツを準備し、通りかかった患者さんたちが自由に貼って参加できるよう、ガラス窓の前の通路に設置しました。

完成後、花びらで飾られたトナカイにはさらに華やかさが加わり、一気に春らしい作品になりました。窓ガラス越しの陽に透かされて、病院の中においても季節を感じられます。

来院された皆さんによって貼られたたくさんの花びら



ご参加いただいたみなさまの声

学生さんや他部署の方と気軽な話
ができて、とっても気分転換になり
ました。参加して良かったです！

実際にやってみると、思った以上
に楽しかったです。みんな一生懸命
で、学生さんの若いパワーを貰いま
した！

ひとつの作品を完成させるこ
とができて達成感がありまし
た。日々大変ですがいい気分転
換になりました。

マスキングテープでの作業は扱い
やすいことに加え、安全面でも良い
案だと思いました。職員にとっても
癒しの時間となり、患者さんにも明
るい気持ちになってもらえる企画で
素晴らしいと思いました。

てててかれんだあ

「てててかれんだあ」は、静岡県立こども病院の患者さんである子どもたちや職員の方々に向けて制作したものです。始めに、このカレンダーを制作するに至った経緯を紹介します。



これまでHAPSは静岡県立こども病院に訪問して、子どもたちと対面でのワークショップを行ってきました。2021年度も引き続き、ワークショップの開催を検討していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、対面やZOOMを使ったワークショップを行うことが難しい状況になりました。それでも、この状況だからこそ私たちにできることを探したい、そして、今までの病院とのつながりやホスピタルアート活動を絶やしたくないという思いから、今だからこそできるかたちを模索しました。そこで、誰でも日常に使用する「カレンダー」を制作することに決定しました。さらに、私たちの活動にご支援いただいている「企業さんと一緒に」病院に向けて手作りする、という新しい形の企画にも挑戦しました。

3

これらは企業の皆さんがデザイン・制作された数字です

企業さんにもデザインの面で参加頂きながら制作するのは今回が初めての試みでした。カレンダーの日付にあたる数字部分を、企業の皆さんにデザインしてもらいました。ひもや布など私たちでは思いつかなかった素材を使ったものや、よく見ると食べ物やかわいい動物が数字の形になっているなど、ユニークなアイデアから生まれた数字たちに、私たちも驚きました。企業の皆さんにご協力いただいたことで、たくさんの個性豊かな数字たちが集まり、毎日異なるデザインの日付を楽しめるすてきなカレンダーを作ることができました！



タイトルの「ててて」には、企業の皆さんとHAPSで手作りしたカレンダーが、静岡県立こども病院の皆さんの手にわたること、コロナ禍で離れていても、温かなつながりを感じてほしい！という想いを込めています。そのため、HAPSが担当したページ上部には、「まち」「星」「いきもの」「森」という、これまで私たちが静岡県立こども病院で開いたワークショップのモチーフを散りばめています。手描きイラストにより、既製品にはない「手作り」ならではの温もりあふれるカレンダーになりました。



大学内でのイベントにてカレンダーを販売しました



完成したカレンダーは、静岡県立こども病院だけでなく、HAPSが日ごろからお世話になってきた方々にお配りさせていただきました。直接会うことはできなくても、このカレンダーが、病院を中心とした人と人とのつながりを感じるきっかけになっていくことを願っています。



HAPSメンバーの声～活動をふりかえって～

ホスピタルアート活動は、まだ日本国内では身近なものではありません。

どうしたらより多くの方に関心を持っていただけるのかを考え、今回、2021年度の活動を3年生として引っ張ってくれた、なつみさん、ともかさんのおふたりにお話を伺いました。

今回、この報告書では、1年間を通じた活動の記録を紹介させていただきました。以下のインタビューでは、実践の結果とはまた違う、学生が3年間を通して実際に見て感じたことという視点からホスピタルアートを深掘りしていけたらと考えています。

みなさまのご協力をいただいて形となった作品たち、そして学生の生の声から、よりホスピタルアートを身近な存在に捉えていただけると幸いです。

しみず なつみ
清水 夏光 さん



わかすぎ ともか
若杉 友郁 さん

Q. 活動始める前と後でどんな変化がありましたか？

考える力、伝える力がついたと思います。病院という場所に加え、コロナでさらに活動への制限が多かったのですが、だからこそ粘り強さも身につきました。

あとは、病院の方や企業さん、HAPSのメンバーなど、内部外部に関わらず、どうしたらうまく連絡できるかを考えるなど、仕事っぽい面もあって、社会人として働くことのイメージがつかしました。





大人数で何かをすることがあまり得意じゃなくて、活動を始めたばかりの時はその難しさを実感していました。だけど、ずっと続けているうちに、みんなでひとつの目標に向かっていく楽しさを知ったんです。

人を頼ったり、仕事を分担したり、チームワークを持って仕事をする大切さ、そして「なぜこの企画を行うのか？」など、ひとつひとつの活動の意義を探る中で、考える力を身につけることができました。



Q. 活動を通じて、最も印象に残っている出来事は何ですか？

子どもたちとの交流ができたことですね。2020年にオンラインで開催したWSは特に印象に残っています。自分が2年生になったということもあり、メンバーやアーティストさんなどと、より深く関わることができた年でした。コロナ禍ということを感じさせないような企画に、人との繋がりを強く感じました。



「活動をうまく引っ張れていないな」と感じる時期があったんです。ですが、そんな落ち込んでいる時にも、他のメンバーが「HAPSはみんなの活動だから、みんなに頼っていいですよ」と声をかけてくれて、すごく励みになりました。みんなの声掛けが力に、そして新たな気づきになった出来事です。

Q. ホスピタルアートの活動意義とは何だと思いますか？

患者さんでも病院職員の方でも、ホスピタルアートに触れるすべての立場の方の気持ちに、少しでも前向きな変化が生まれることですね。もちろん、そこでコミュニケーションが生まれるのも嬉しいのですが、一人で見ていても何か感じられるものがあるはずだと思います。

そして、人との繋がりを感じられること。活動が続いていく中で、企業の皆さんと病院の方々が作品やWSを通じて繋がるなど、人と人との輪のつながりを感じる出来事が多くありました。



HAPSメンバーと磐田市立総合病院院長先生

同じく、人と人とのつながりですね。協力して頂いた病院や企業の方々は、活動していなければ出会えなかった人ばかりなので、ひとつの活動から派生して、色々な方との繋がりが生まれることが嬉しかったです。

そして、正解がないアートやデザインだからこそできること、という要素が大きいです。文章や映像では表現できなくても、アートやデザインだからこそできるものがあると思います。



2021年度協力企業様（敬称略・50音順）

2021年度、私たちの活動に多大なるご理解とご協力を賜りました企業の皆様に、心より御礼申し上げます。

NSK ワーナー株式会社

キャタレント・ジャパン株式会社

ジーニアルライト株式会社

株式会社ソミック石川

日本印刷工業株式会社

丸啓細巾工業有限公司

メンバー紹介（50音順）

雨宮 瑠里 / 岩倉 柚奈 / 小野寺 凜 / 塩崎 美花 /

清水 夏光 / 須川 凜音 / 田中 希実 / 中島 由乃 /

長沼 かほり / 萩野 啓 / 萩原 彩吹 / 若杉 友郁

詳しい情報は以下に掲載しております。

HP : <https://hapsuac.wixsite.com/haps>

Twitter : @HapSuac2016

Instagram : hapsuac



ホスピタルアート
プロジェクトしずおか
Hospital Art Project Shizuoka

